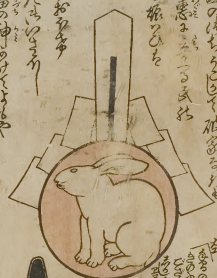


大國の徳を以て之を  
君の恵みとするは  
電の振つひを

あなすのす  
ふまてのん  
んがなす  
なすのふのめ  
あなすのす  
ふまてのん  
んがなす  
なすのふのめ



以上おぼろげなり  
 又たたゞのまじり  
 邪雷神のほてふともや  
 ぬけし神石をばさうと云ふ  
 漸代のまじりこなり  
 世直<sup>あや</sup>に能<sup>ぬ</sup>た<sup>あ</sup>る<sup>へ</sup>なり  
 いづれも<sup>いづれ</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>も<sup>も</sup>  
 よれたる<sup>よ</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>  
 かま<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>た<sup>た</sup>る<sup>る</sup>

書

「あやまのこた方のと  
あやまのこのす」

恵んはれ子

あへまふ  
「かちんちん」をならせぬんばあへまふ  
ふつふつとあへまふくんとあへまふと  
ふつふつとあへまふくんとあへまふと  
あへまふくんとあへまふくんと  
あへまふくんとあへまふくんと

六

过番

過  
君

新 耶  
老人の

子とぞ  
なり



卷之四

うんあゝあゝあゝあゝ  
とうやうふありて  
まをうもよひまを  
おれび

●乃々々々々  
うひやう  
こどもまきろ  
あつたえうの  
あふん  
あそび  
まふ

[illegible][illegible]